

面接、ESは、量をこなす
自信持ち、笑顔でハキハキ
公務員はとにかく勉強



第1回就職セミナー

人文学部学生委員会は、就職支援センターとの共催で、11月16日午後、人文学部講義棟で第1回就職セミナーを開催した。就職先の内定した4年生が講師となり、2、3年生を中心とする在学生に対する就活の指南が目的で、開催は初めて。会場の11番教室には、80人ほどの学生が集まり、「内定獲得の決め手は」、「経費ほどの程度か」などの真剣な質問が飛び交っていた。

冒頭、佐川泰弘学部長が、就職活動について「何も恐れることはありません。いつも通りのペースでやればいいです。とにかく、大人しいと言われる茨大生から脱出し、本日の先輩の話参考に、積極的に自分を語るようになって欲しい」と挨拶。これに続いて、経営学が専門の今村一真学生委員会副委員長が「先輩の話を聞く機会は少ないです。有意義な時間にしてください」と呼びかけた。



トップバッターは、みずほ銀行に内定した清山ゼミ所属の戸辺さんで、「先生のアドバイスの実行を心掛けた。



面接、ES（エントリーシート）は、量をこなすことが大事、やり方が分かってくる」とアドバイスした。北海道のコンビニチェーンのセコマに内定の木幡さん（高野ゼミ）も「ESの添削を友人にお願いした」と振り返った。

面接法の突破について、中央労金に内定した棚井さん（清山ゼミ）は、「自分の言葉でしゃべるのが大事」との経験を披露。常陽銀行に内定した大金さん（古賀ゼミ）は、「常にポ



ジティブ、自信を持ち、笑顔でハキハキと伝えるのがコツ」と

伝授した。朝日新聞（記者職）に内定した寺地ゼミの武田さんは、「ボランティアなどをして、その結果、自分がどう考えたかなどを語るのがポイント」と指摘。オズマPR中村さん（村上ゼミ）も「自分に自信を持つ」を挙げた。

富士通に内定した磯貝さん（菅谷ゼミ）は、会社を選んだ理由について



て「社風に合っている。挑戦しがいがあると感じた」と説明した。損保ジャパンの塩原さん（古賀ゼミ）は、就職先について「海外留学からの帰国後、何をやりたいのか分からなかった。インターンに参加してそれを見つけた」と語った。



内定獲得の決め手について JR 東日本に内定した藤井さん（横溝ゼミ）は、『「お客さんを笑顔にしたい』と PR し、これが良かったようだ」と指摘、富士通ゼネラル小野さん（佐川ゼミ）は、「(人事部に入り) 残業代を減らす仕組みを作りたい」との提案が意外に受けた強調した。

面接の際の難しかった質問として帝人フロンティアの阿部さん（葉ゼミ）は「嫌いな人とどう付き合うか」などを挙げ、茨城県庁に内定した佐川ゼミの小松崎さんは、「とにかく勉強した」と力説した。

セミナーは、12人の講演の終了後、グループごとに分かれて学生が4年生に質問する形となった。学生委員会では、来年1月25日に、卒業した5年生のOBOGに就職活動の指



南を受ける OBOG 懇談会を予定している。

(終)